

「若いとき」を大切に

メカニカル3D・CAD科
非常勤講師
林 俊一

皆さんご卒業・ご就職おめでとうございます。ようやく景気も上向き、新卒の就職率も高くなっていると方々で耳にします。ただ、既に働いている皆さんの話を聞きますと、就職してからが大変のようで、以前のように会社が「自社の社員は自分のところで育てる」といった気概が希薄のように感じられます。日本の伝統的な雇用形態「終身雇用制」が崩れ、労働者には「自己啓発」の名のもと厳しい労働環境に追い込まれているのが現実です。各企業が導入した「成果主義」が社内での各人の意思疎通を阻害し、技術、技能などの継承がうまくいかず、この方式(経営思想)が見直されてきてはいます。とはいえ、おおむねこの方式が優位にあることには変わりはありません。皆さんが入社なさった会社でその会社に必要な技能、技術とはなんのでしょうか？ 私たちの時代(1942年生まれ)は、なにか一つ手に職をつければ(技能であれ、技術であれ)なんとか、一生を送れたように思います。

しかし、今は、そうは行きません。原因は産業構造の転換などいろいろ考えられますが、例えば会社の生産システムの変更、企業合併等で、昨日は「技術」、「技能」として通用したものが、今日は会社にとって必要な「技術」、「技能」でなくなってしまうことがあります。このような観点から考えますと、今日の技能、技術とは広い意味で

「適応能力」すなわち基礎学力[数学、物理(化学)、英語等]ではないかと思えます。そこで、就職してからも基礎学力に加え、いま携わっている仕事のスキルを高める上でも、継続的に勉強をし、「自分のキャリアは自発的に、計画的に、継続して、形成していく」という姿勢が大切なのではないでしょうか。今は、学習意欲さえあれば、それを支援してくれる環境が充分整っています。例えば、大学(大学院)、放送大学、各都道府県にある職業訓練施設、教育訓練給付金制度(個人対象:厚生労働省にアクセスすれば詳細がわかります)、キャリア形成促進助成金制度(事業主対象:雇用能力開発機構で詳細がわかります)等があります。ぜひ活用なさることをお勧めします。近年「生涯学習」とよくいわれていますが、この言葉は特に若い人に、「若いとき」を大切にしないととのメッセージではないかと思えます。将来「達成感」を身にしみて感じられるような生き方をなさるよう、自戒を込めて心より希望いたします。